

平成 26 年 3 月 27 日

立川市議会

議長 守 重 夏 樹 殿

立川市議会 総務委員会

委員長 永元 須摩子

行政視察報告

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察月日

平成 25 年 11 月 13 日（水）から平成 25 年 11 月 14 日（木）

の 1 泊 2 日

2 視察地及び視察事項

視察都市名	視 察 事 項
岩手県花巻市	合衆市イーハトーブ花巻について
岩手県北上市	きたかみ Ping! Pong! Pang! 運動について

3 視察の概要及び所感

別紙のとおり

立川市議会総務委員会視察報告

視察期日 2013年11月13日～14日

視察参加者 立川市議会総務委員会

委員長 永元須摩子

委員 高口 靖彦 須崎 八朗 福島 正美 田中 清勝

1日目(11月13日午後)岩手県花巻市(人口10万1千人)

視察事項

地域主権のまちづくり～小さな市役所構想から合衆市イーハトーブ花巻構想～

平成19年4月から市内の小校区単位を基本に26の振興センター(現在27センター)を開設し、地域住民がその地域ごとに組織した「コミュニティ会議」を核として、地域の課題を自ら考え、行動し、解決する仕組みづくりや、振興センターに配置された職員がその支援に取り組み、都市内分権構築によるまちづくりを具体化する仕組みの一つとして「小さな市役所構想」をスタートさせた。

「小さな市役所構想」によって、各地域の特性を生かした活動が活発になってきたことから、これまでの活動の成果や課題を踏まえて、より安定し、自立した地域づくりを継続し、幅広い世代の参画を推進していくため、平成23年度から、27の地区の集合体を花巻市と位置づけ、「合衆市イーハトーブ花巻構想」に取り組んでいる。

当日は、全議員が、事業の概要や今後の課題、成果などについて伺いました。

① この事業のきっかけについて伺う。

平成18年に旧1市3町の合併により花巻市が誕生。初代市長の公約に「小さな市役所構想」があった。この構想は地域主権の理念を実践するもので、「住民が自分の地域について考え、決定し、行動する仕組みの構築。また、住民が身近な所で行政サービスが受けられる仕組みも合わせて創設された事業である。

② 事業の概要

市内を27の地区(コミュニティ地区)に分け、各地区に1つ、住民で組織するまちづくり団体(コミュニティ会議)を指定。27のコミュニティ会議に、総額2億円の地域づくり交付金を交付し、地区内の参画と共同によるまちづくりを推進している。

③ 振興センターについて

・取り扱い内容

市内27のコミュニティ地区に1つずつ振興センターを設置し、まちづくりの拠点とする他、各種生涯学習講座、住民票等の証明書発行事務を行っている。

職員は、主任～係長級の職員を1名配置している。

・事業の開始から変化・発展した事項

当初は、職員配置を2名（課長級の「局長」と若手職員）を設置、平成23年度からは職員を1名にし、コミュニティ会議を指定管理者とし経費の削減に寄与する。

本庁及び総合支所に地域支援室を設置し、専任の地域支援監5名で27センターの活動をフォローする。

・利用者の傾向

平成24年度の延べ利用者数は約297,500人。内生涯学習等の講座は約28,000人、官公庁による利用（説明会や検診など）は33,000人、その他の各種団体（サークル活動、コミュニティ会議によるイベントや各種会合）の利用者は185,000人、その他企業による利用などが49,000人となっている。

④ 27地区での事業に対する温度差について

地域ごとに課題やインフラ整備状況が異なるうえ、地域づくり交付金の交付額も異なることから、地域活動の内容はそれぞれ異なっている。地域においてどの事業を優先するのか、地域の課題や交付金によって異なるため地域活動の格差は出てくる。

⑤ 自治会との連携について

コミュニティ会議は市が27地区ごとに1つだけ指定する地域づくり団体であり、市とは対等の立場である。一方、自治会は地域住民が任意で設立する団体で、団体数も正確には把握していない。市とのパイプ役としては223行政区を設置し、行政区長を委嘱して広報等配布業務のほか、道路要望なども行政区長より寄せられる。

⑥ 行政の役割

- ・コミュニティ地区条例（地区の指定、地域づくり団体の指定、地域づくり交付金、コミュニティ会議の作成する地区ビジョンの尊重）
- ・市とコミュニティ会議との協議の場設置（年2回程度開催）
- ・人材育成セミナー等を通じて先進地事例の紹介などを行う。

⑦ 助成を受けている団体

地域づくり交付金は27地区全てに交付されている。

⑧ 地区から事業が示されても、適正でないものは行政側がストップをかけることもあるのか。自主性を尊重するが、会長の意見だけで事業がすすむわけではない。

⑨ 住民の反応について

- ・コミュニティ会議の名称や活動はだいたい市民に定着している。平成24年度のコミュニティ会議主催の事業857事業、地域課題の解決に向けた事業の参加は約2,300人。
- ・市民アンケートにおける「この1年間に地域づくりに参加したことがある市民の割合」は約82%と市民のまちづくりは自分達の手で、という協働・参加の意識は向上している。

⑩ 今後の課題と展望について

特に若い世代の地域づくり活動への参画が不足している。地域づくりの担い手の育成が求められていることや、地域づくりの交付金については、交付金を使うために地域課題を探し出しているような流れも一部に見受けられる。

⑪ この事業を進めてきてよかったと思うことは

今後、人口と体力が弱くなってくなかで行政経営は大変になる。地域のもてる力を生かして、市へのボランティアとして参加してもらうことができる仕組み。そして地域が自分たちの町であること、地域づくりに誇りが持てるようになってきていること。

感想

自分達の地域を、いかに住みよい環境や、文化的な生活を送っていくために、コミュニティ会議を中心に総額2億円かけて自分達で事業を進めていくというまちづくり事業、交付金の範囲で毎年積み重ねていく。次は、何の事業を行うのか住民の生活にも責任ある事業であると感じた。また、若い方の参加が少ないようですが、市民がこの1年間で地域づくりに参加されている方が8割を超えていることは素晴らしいと思いました。

2日目(11月14日午前)岩手県北上市(人口9万4千人)

視察事項

きたかみ Ping! Pong! Pang! 運動について

北上市では、業務の効率化及び職場の活性化並びに市民サービス向上を目的に全庁的業務改善改革実践運動「きたかみ Ping! Pong! Pang! 運動」を実施している。

Ping! は仕事の改善点に「ピン」と気が付く人材づくり。

Pong! はアイデアを「ぼん」と出せる気軽に話せる職場づくり。

Pang! は思わず「パン」と手を叩く改善内容。との説明がありました。

毎年、改善運動発表会が行われ、市民にも公表されるとのこと。また最優秀賞受賞チームは全国大会に派遣される。

エントリーの方法は、職場単位、グループ単位、個人でもエントリーができる。

取り組みの成果としては、平成18年～24年度の7年間で448件の取り組みがされた。

平成24年度の取組み件数は、41の職場・グループから59件。

発表会を見ての市民の反応は、こうした取組みを長く継続すると、他に自治体と顕著な差が付くと思う。市役所の方達が日ごろ無表情なので笑顔で人間らしくてよかった。買い物に来て偶然この発表会を聞くことができた。市職員の皆さんの真剣さが伝わってきました。などの感想が寄せられました。

職員の反応は、若手職員の発想は本当に面白い。刺激になりました。楽しませる「おもてなし精神」がいいね!身近なこと、小さなことから始めているふが、次への展開が期待できる事例が多かった。他の職場でも活用できる事例は、事務局で普及推進して欲しい。

こうしたことにより、市民サービス満足度が41の部署から挙がっていることが、市民アンケートから伺えたとのこと。

平成24年度全庁改善普及運動を実施する。実施の目的としては、

- ① 「やってみたらできた」という小さな成功体験を積み重ねることで、中長期的に個人と組織力を大きく成長させる強い前向きの動機付けができる。
- ② 職場内でコミュニケーションが取れるようになり、以前より問題解決が迅速に行われるようになる。などの成果も出ている。

今後の課題と展開は、これまでに各職場等で取り組んだ448件のテーマが他の職場で有効活用されていない。初期コストが高く、改善効果も高い、「すごい」案件が評価も高い。など問題点も指摘されています。

全国都市改善改革実践事例発表会が大分県や埼玉県で開かれ、北上市は、平成22年に開催市となっている。

地方自治体の業務改善のノウハウが注目され国際協力機構（JICA）の国際支援協力プログラムとして、バングラデシュ国立公務員研修所からの視察があったことも報告されました。

感想

本市にも一般的な提案制度はありますが、こうして職員の方が実行委員会を立ち上げて企画され、全国発表会にまで出場されることを大変素晴らしいと思いました。職場の上司の方々が、ポケットマネーで賞金を出して、この運動を盛り上げることにも感嘆いたしました。

以上、①花巻市の地域主権のまちづくり～小さな市役所構想から合衆市イーハトーブ花巻構
想～ ②きたかみ Ping! Pong! Pang! 運動について報告とさせていただきます。

視察に当たり、両市の議会事務局の方々には多大なお世話になりましたこと、心から感謝申し上げます。